
攫われた後は・・・？

睦月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

攫われた後は・・・？

【Nコード】

N4845Z

【作者名】

睦月

【あらすじ】

天気が良かったからバルコニーで侍女たちと庭を眺めていたら、空から何かがこちらに向かって飛んできた。思わず目を瞑ると体がふわっと浮いていて、目を開けると私は空の上。あまりの出来事に意識が飛んだ私が次に目を覚ましたのは魔族の城の1室。・・・そんな攫われた後の彼女の気持ちを日記形式で書いてみました。

前編（前書き）

・・・走り書きの様な感じになってしまいました。

拙い文章ですので、読めないと感じられた方はどーんとスルーの方
向でお願い致します。

前編

1日目

・・・とりあえず、誰かにここに私がいた事を伝えたくて、日記を書いてみる事にした。

きっと、私の命はもう長くないんだろうから・・・。

だけど・・・。

まさか、私がこんな事になるなんて思ってもみなかった!!

どうして、私なの!?

なんでこんな事に!!

2日目

どうして私がこんな目に!!

あの時、バルコニーに出なければ。

あの時、天気が良くなければ。

あの時、あいつと目が合わなければ。

3日目

今日で3日目……。

一体私はどうなるんだろう。

とりあえず牢屋に入れられていないってことが救いなんだろうか。

あれから、アイツの手下がなんだかんだと私に泣かないでくれと懇願する。

誰が、あんな奴らの言う事なんて聞くもんか！

食事だって何が入っているかわかったもんじゃない。

絶対に食べ……食べない！！

4日目

・・・泣き疲れた。

しかも、ここに連れてこられて以来、アイツは姿を現さない。

まあ、いいんだけど。

殺すなら、さっさと殺せばいいのに・・・。

それにしても、3日間泣き続けるとさすがにもう涙も出ない。

頭も痛い。

だから、今日はゆっくり休む事にする。

5日目

頭いたい。

どうやら今度は寝すぎたらしい。

普段こんな不規則な生活してなかったからかな。

あー……。頭いたい。

クスリ欲しい。

でも、薬なんてあるのか？

6日目

……。暇だ。

とりあえず、連れてこられた日からいつも世話をしてくれていた彼女に話しかけて見る事にした。

うん、ここに書かなかっただけで、彼女の存在に気付かなかったわけではない。

いや、例え気付かなかったとしても、私悪くないよね？

状況が状況だし。

彼女の名前はリリと言うそうだ。

なにやら私の世話をアイツから仰せつかったのだと。

ずっと話しかけても無視され、さみしかったと言われた。

……すみません。

6日目

リリは明るくとてもいい子だ。

アイツの下にいるのがもったいないくらいだ。

ここから帰ったらリリも一緒に連れて行こうと画策中だ。

それにしても、やることもないとはこうまでも暇なものなのか。

お父様もお母様も心配しているかな・・・？

きっと、今頃私を助ける為、軍が向かってきているだろうな。

7日目

今日で、1週間。

リリが言うには、私はアイツの花嫁になるらしい。

衝撃の事実にめまいがした。

めまいがした瞬間、暴れてしまった。

・・・リリの困った顔も可愛いな。

なんて、思ってたら、部屋を片付けた後、にっこり笑って言われた。

『姫様とあろうものが、感情に流されて暴れるなんて言語道断！これからしっかりと教育させていただきます』

・・・謝る以外の選択肢なんてあったらどうか・・・。

二度とリリを怒らせまいとここに誓う。

しかし、りりも卑怯だと思う。

あの笑顔で、あの後で、アイツと明日会わなければいけないなんて、嫌だとも言えなかったじゃないか！！！！

はぁ・・・。あいつなんかと会いたくないのに。

早く助けにきて・・・。

8日目

最悪だった。

朝から風呂に入れられ、リリ以外のメイドに磨き上げられ、

出たら出たで着せ替え人形よろしくあれでもないこれでもないドレスを着せられた。

それが終わると、メイクだ髪だと3・4人に囲まれる。

やっと終わったかと思うと、行きつく暇もなくアイツの元へと追いやられる。

王座に偉そうに座って私を見下ろしていたその目が気に入らない。

「よくきた。お前は私の嫁になる」

ふざけるのもいい加減にしろ！！

9日目

とりあえず、アイツの嫁なんて冗談じゃないので、この城から逃げる事にする。

今まで、一人で何かをするなんてした事なかったけど、ドレスも着れたし、髪も結べた。

荷物も持ったし、お金……はないけど、なんとかなるだろう。

きつと、この城をぬければ馬車で逃げられる。

そう思って、こっそり城を抜け出したはずなのに、城の出口であいつが待っていた!!

結局、あいつに担がれて元の部屋に戻された。

誰にも会わなかったし、見つからなかったはずなのにどうして、バレてしまったのだろう……。

やっぱり、アイツは化け物なんだ!!

10日目

今日は朝から、りりが目を光らせて私を見ている。

昨日抜け出そうとした事をアイツに白状させられた後、リリは笑顔で無言で私の傍についた。

そして、こう言った。

「・・・あんな格好で抜け出すなんて、馬鹿ですか？馬車が待ってくれている？アホですか？ああ・・・すみません、馬鹿でアホなんです」

にっこり笑ってそう言うリリはアイツも若干引き気味な位、怖かった！！

前編（後書き）

一国の姫とは思えないラフさです・・・（T
|
T）

中編

11日目

なぜか、アイツが私を連れて出掛けるといふ。

急に言われても着ていくものがない！と言ったら、アイツはリリに耳打ちをした。

2りで何をこそこそ、と思っていたら嬉々としてリリにドレスを脱がされた。

思わず悲鳴を上げると、そこにアイツが飛び込んできたものだから下着姿を見られてしまった！！！！

そのあと、出掛けた先で何度も謝られたが、到底許す気にはなれなかった。

でも、あの星空は綺麗だった。

12日目

昨日うっかりアイツと手をつないでしまった。

雰囲気にながされて……。

おかしい。私はアイツの事が嫌いだったはず。

ううん。今も大嫌い！！

食事のときにじっと見られるのだって、ふんわりと笑う顔が可愛いなんてそんな事想う訳ない！

13日目

……アイツに嫌いと言った。人殺しと……。

本当はアイツやアイツの手下が人間に酷いところをしているのなんて見た事ない。

でも、アイツらはそういう奴なんだと教えられてきた。

いつも言っていた事なのに、なぜか今日は胸が苦しくなった。

だけど、アイツの目が忘れられない。

悲しい瞳で困ったように笑う顔。

14日目

今日はなぜだかアイツと全く出会わなかった。

もしかして、避けられてる？

嫌いって言ったから？

でも、そんな事いつも言っているのに・・・。

15日目

とうとう、私の国からの軍がこの国の国境に到達したとリリが言った。

嬉しいはずなのに、なぜか素直に喜べない。

今日も変わらずアイツとは顔を合わせていない。

心に何かがひっかかる。

・・・まだ、来なくてもよかったのに・・・。

16日目

アイツが全く姿を見せない事が気になり、リリに聞いた。

そしたら、アイツは今、国境にいると！！

私は今すぐそこに向かおうとした。

だけど、リリに止められて部屋に監禁されてしまった。

・・・怪我してないよね？

・・・死なないよね？

17日目

おかしい。

監禁されている部屋の外がなんだかあわただしい。

もしかしたら、何かあったのかもしれない。

何度も何度も扉を叩いてリリを呼ぶけど全く返答がない。

もしかして、リリにも何かあったの!?

アイツの手下たちのあわただしくする音がやけに耳につく。

・・・あいつに何かあったんじゃない・・・

18日目

城の中が昨日とはうってかわって静かだ。

この城にいるのは私だけじゃないのかと思うくらい。

皆・・・どうしたの？

誰もいないの？

あれだけ、騒がしかったのに・・・。

まさか・・・

19日目

扉が開かれた。

だけど、そこにいたのは私の国の騎士服をきた男だった。

男は「助けにきました！姫！！」と言った。

そして自分は勇者だと。

勇者が自分で勇者っていうのってどうかと思う。

でも、扉が開いた今、そんな事はきにしてられない。

自称勇者を突き飛ばして私は城の中を駆け回った。

りを探して。

皆を探して。

……アイツを探して。

20日目

私は自称勇者たちに連れられて城に戻った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4845z/>

攫われた後は・・・？

2011年12月19日11時57分発行